

普及活動情勢報告（令和5年10月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

よりよいワサビ苗生産を目指して ～いの町農業公社の葉ワサビの育苗支援～



いの町農業公社では、高知県内で栽培される葉ワサビの育苗事業を行っています。

農業改良普及課では、他地域でのワサビ育苗環境の視察や、関係企業との情報共有を行うなど、農業公社での発芽率向上や苗の充実に向けて支援しました。

育苗床の温度を下げる工夫や遮光などによる育苗環境の改善の結果、今年度は9月20日に播種した種子の発芽率が大幅に向上しました。農業公社職員からも「9月から発芽率を高める方法が掴めてきた」との意見もありました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携しながら、優良苗出荷に向けて支援します。

土佐市のピーマンの担い手確保に向けて ～農業大学校での新規就農に関する施策説明会に参加～



10月10日、農業大学校で、2年生33人を対象に開催された新規就農に関する施策説明会に関係機関で参加しました。

農業改良普及課は、土佐市役所とともに、ピーマンの産地提案書を用いて産地紹介及び求める人材等を、JAからは、農業で働きたい人と農家をマッチングする『あぐりマッチこうち』について説明しました。

ピーマンの栽培に興味を持っている学生もおおり、今後も継続した学生への働きかけが必要であると関係機関で認識されました。また、より興味を持ってもらえるように発表方法等を検討していくこととなりました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携して積極的に説明会や就農相談会等に参加し、担い手の確保に取り組んでいきます。

ユズの優良園地を次世代に引き継ごう ～いの町吾北地域の優良ユズ園地調査～



ユズ生産部会及び関係機関で構成する高吾北ユズ産地協議会では、担い手への園地の流動化を推進しています。

農業改良普及課では、園地評価指標の作成や優良園地候補の洗い出しを関係機関とともに進めており、10月11日に、生産者、関係機関とともに、いの町下八川地区と小川地区のユズ園地の現地調査を実施しました。参加者からは、「同じ優良園地候補であっても広さ、傾斜、日照時間、樹齢など、園地ごとに長所、短所がある」との意見が聞かれました。

今後は、調査結果を基に園地台帳を作成して、関係機関と生産者で共有し、園地の流動化につなげていきます。

集落営農組織を立ち上げたい！

～いの町沖田地区の集落営農組織設立に向けた検討会を開催～



いの町沖田地区では、6月には場整備に向けた地元説明会を実施し、その中で集落営農について説明を行いました。その後、沖田地区の中心的な農業者から「今後、耕作放棄地の増加が予想されるため、集落営農組織を立ち上げたい」と声上がり、10月12日に関係機関と農業者8人が集まり、組織設立に向けた検討会を開催しました。

農業改良普及課からは、設立までの流れや必要書類について説明し、参加者からは「組織設立には地元の人を巻き込まなければならないことがわかった」との意見が出ました。検討会の場を設けたことで推進していく方向性も決まり、また、地域の課題について関係機関で共有することができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して組織設立に向けた活動を支援していきます。